

戸田市市制施行50周年記念対談

50周年はさらなる飛躍への起点

戸田市長 神保 国男氏 × 戸田市名誉市民 中村 隆俊氏

市長就任直後からさまざまな施策を行い、各種ランキング調査でも上位にランクインするなど戸田市の顔として魅力ある街づくりにまい進してきた神保国男・戸田市長と、市制施行50周年の記念の年に長年の功績から名誉市民に選ばれた中村隆俊氏。戸田市とともに歩んできた2人が市制施行からの半世紀を振り返りながら、戸田市の未来について語り合った。

profile

神保 国男(じんぼ・くにお)

1942年(昭和17年)9月30日、戸田市生まれ。戸田第二小学校、戸田中学校、蕨高等学校、法政大学法学部卒業。学生時代は陸上部で活躍。67年に司法試験に合格し、神保国男法律事務所を開設。埼玉弁護士会副会長などを歴任。87年より埼玉県議会議員に3期連続当選。98年より戸田市長選挙に5期連続当選。

profile

中村 隆俊(なかむら・たかし)

1927年(昭和2年)10月25日、北海道瀬棚町生まれ。1950年に北海道大学医学部卒業後、東京医大内科に入局し、医学博士に。62年に戸田中央病院(29床)を開業。その後、県下を中心に傘下病院を拡大し、現在は1都4県に28の病院と6つの介護老人保健施設など114事業所を展開する戸田中央医科グループの会長として活躍。

「人づくり」教育が発展する戸田市を創る

子育て・教育支援でブランド化
市長 東京に隣接するという選ばれる

「花と緑で潤いあるまち」
市長 ありがとうございます。本市は都市化が進む中で緑を失ってはいけないと思ひ、花と緑で潤いあるオアシスのようなまちづくりを目指し、環境に負荷をかけない循環型社会の仕組みや市民による緑のボランティア活動の促進、環境と福祉の融合を進めてきました。

50余年前から地域の救急医療担
中村 まずは戸田市市制施行50周年、誠におめでとうございます。私自身、戸田市と共に歩み、発展させてきたという思いがありますので感無量です。昭和30年代半ば、兄の哲夫が開院した板橋中央病院で弟・秀夫と3兄弟で働いておりました。オートバイにまたがって荒川を渡り、しばしば戸田へ往診に出向いていたのですが、この地に医療機関が少なく、患者さまが困っていることを知り、わずか29床の戸田中央病院を開院したのが始まりです。市制施行時までの地には消防署自体がなく、救急車が一台もなかったのが、当時の戸田市長・金子庄五郎さんからの依頼で緊急通報番号「119」の指定を受け、救急車を走らせるなど地域の救急医療を担っていました。1日中電話は鳴り止まず、ひっきりなしに患者さまが来院してきて、本当に忙しかったですね。この番号は今でも私

「世界に飛び立つ子どもたちを支援
中村 市長は就任時の公約通り教育に力を入れ、戸田市は全国からも注目される県内トップの自治体になりました。グローバルな今の時代、日本から世界で通用する人材を育てるには海外留学経験が必要です。私は貧困家庭の子どもでも平等に世界に飛び込める後押しになればと青少年育成海外留学基金(仮称)の設立を考えておりました。戸田市にも未来の宝である子どもたちのために、次なる50年をお願いできれば幸いです。

とどいて思い入れの深い番号です。あれから50年。周りの景色はすっかり変わりましたが、開院当初からの「愛し愛される」の理念のもと、迷わずに医療に専心してまいりました。
市長 一意専心、すばらしいですね。中村さんは「月火水木金」と表現されていますが、患者さまの「愛し愛される」の理念を第一に考えるその強い思いには本当に頭が下がります。本市は、「誰もが健康でいきいきと生活できるまち」を基本目標のひとつに掲げており、今年度は妊娠から出産・子育て期までの切れ目のない支援を推進するため「子育て世代包括支援センター」の設置などを行いました。
その一方で、戸田中央医科グループは市民の健康を守る医療・介護・保健・福祉のトータルヘルスケアネットワークを築いてきたとき、本市の医療・福祉サービスの充実にも大きな協力を頂戴しております。また今年度10月目を迎えますが乳がんの早期発見・早期治療を呼びかけるイベント「ピンクリボウォークIN戸田市」では、毎年多大なる協力をいただいております。おかげさまで、運動が始まった当初は検診受診率5%だったのが、直近のデータでは同52.7% (埼玉県平均32.5%)と県内トップクラスとなりました。この運動の効果を実感しています。市民の皆さまが安心して日々暮らすことができれば、いざという時に頼れる医療体制などが身近に整っていることは大変重要です。本市は人口増加を続けておりますが、選ばれる自治体であるためには、欠かすことのできない要素であると考えています。
中村 あるとうございます。市長から人口増加の話が出ましたが、市制施行を機にJR埼京線の開業や東京外かく環状道路と交通網が整備され、多くの若い世代の方々が移り住んでまいりましたね。当時約5万5千人だった人口が今や約13万6千人です。市内を散歩していても若い方がベビーカーを押している姿をよく見かけるようになりました。子育て支援が県内トップクラスと聞いていますが、若い皆さんが引越してくる街になり、まち全体が活気づいて私も元気をもらっています。

「助の仕組みで防災防犯強化
中村 以前、戸田市に住みやすい持続可能な都市として全国3位になったことあるのですが、市長に「どうしたら全国1位になれるか」と聞いたところ、「軽犯罪がなくなれば」とおっしゃっていましたね。当時、駅前の一帯にありサイクリングレーサーや自転車などが1月平均60台、何か日本一の街にしたいと思ひ、県内で初めて発足した戸田警察官友の会の協力を開始し、「わっとパトロール」をスタートしました。自転車の盗み取りや、力を発揮することで理想のまちを実現していくことを目指しています。これからの時代、まちはまちを愛するみんなで形づくっていくべきであると考えます。

やよい地理的条件を生かし、戸田市としても住環境、住みやすさをブランド化してきました。とくに「子育て」「教育」については明確に重点をおいて取り組んでいます。
まず、子育て支援としては、県内で最初に子育て施策が充実したまち「埼玉県地域子育て応援タウン」に認定されています。保育園の待機児童解消策としては、今年度「待機児童緊急対策本部」を設置し、安心して子どもを預けられる環境づくりを進めています。
また、教育の分野では、子どもたちがタブレットパソコンを自由に活用できるような、すべての小・中学校に無線LAN環境を整備し、他自治体を活用したICT教育(情報通信技術を活用した教育)に努めています。さらに、中学生までの医療費全額助成を継続することで、経済的な支援も引き続き進めていきます。

「世界に飛び立つ子どもたちを支援
中村 市長は就任時の公約通り教育に力を入れ、戸田市は全国からも注目される県内トップの自治体になりました。グローバルな今の時代、日本から世界で通用する人材を育てるには海外留学経験が必要です。私は貧困家庭の子どもでも平等に世界に飛び込める後押しになればと青少年育成海外留学基金(仮称)の設立を考えておりました。戸田市にも未来の宝である子どもたちのために、次なる50年をお願いできれば幸いです。

金支給される「三軒協定」の制度が挙げられます。また、2011年に市民や町会、企業などによる「戸田市花と緑のまちづくり実行委員会」を組織できたことで、戸建て住宅や集合住宅、街角、公園、駅などそれぞれが緑が連続するようになり、これまでの結果をもちろしく、これまでに中村さんにはその実行委員長として戸田公園西口駅前のまちづくりにご尽力いただいております。

「世界に飛び立つ子どもたちを支援
中村 市長は就任時の公約通り教育に力を入れ、戸田市は全国からも注目される県内トップの自治体になりました。グローバルな今の時代、日本から世界で通用する人材を育てるには海外留学経験が必要です。私は貧困家庭の子どもでも平等に世界に飛び込める後押しになればと青少年育成海外留学基金(仮称)の設立を考えておりました。戸田市にも未来の宝である子どもたちのために、次なる50年をお願いできれば幸いです。



10年目を迎えるピンクリボウォークIN戸田市



親子ついで賑わう子育て広場



他自治体に先駆けたICT教育



国土交通大臣賞を受賞した「花のまちづくり」



軽犯罪抑止に一役買う「わっとパトロール」



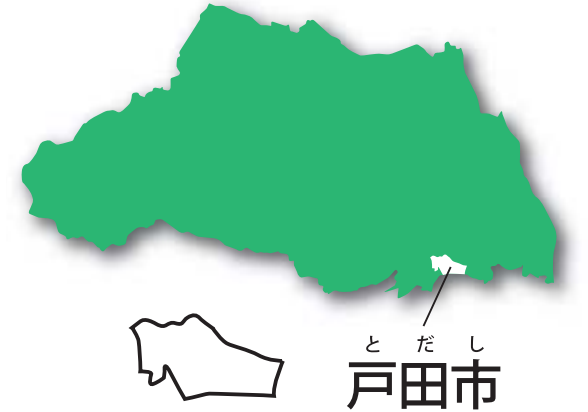


# 戸田市 市制施行50周年

## わたしがつなく、戸田の未来。



江戸時代には中山道の「戸田の渡し」が置かれ、舟運などで栄えた戸田。1941(昭和16)年6月、町制施行に伴い、戸田村が戸田町に。1943(昭和18)年4月には、美谷本村と笹目村が合併して美谷村となり、1957(昭和32)年7月、戸田町と美谷村が合併し、ほぼ現在の姿が形成された。1966(昭和41)年10月の市制施行から半世紀を迎え「わたしがつなく、戸田の未来。」を記念キャッチコピーに新たなまちづくりを展開している戸田市を紹介する。

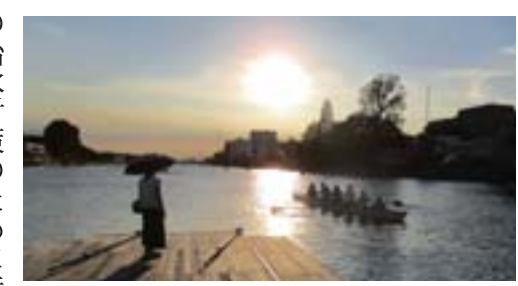


■戸田市…戸田市は豊かな荒川の流に抱かれるように県南東部に位置し、総面積は18.17km<sup>2</sup>。東は川口市、北はさいたま市と蕨市、荒川を挟んで西は和光市・朝霞市、同じく荒川を挟んで南は東京都板橋区に接している。中央にJR埼京線が、西部に首都高速5号線と東京外かく環状道路が通り、交通の要衝「美女木ジャンクション」があるなど、高い交通利便性を誇る。人口は現在13万6千人。自然豊かな「戸田公園」「彩湖・道満グリーンパーク」があり、水や緑を身近に感じられる環境も魅力のひとつとなっている。

戸田市の神保国男市長(中央)と戸田市立戸田中学校ボート部のみなさん(左から石原綾大さん、田中紫乃さん、都丸美利雅さん、佐藤柊太さん)。神保市長は戸田中のOB。「大人になっても、戸田に住み続けてほしい」(神保市長)。オールのうしろに見えるのが戸田公園大橋、橋の奥にボートレース戸田がある。撮影当日はあいにくの小雨模様だったが、5人が船台に集まると市制施行50周年をお祝いするかのようになり、空が明るくなり雨がぴたりとやんだ=2016年9月16日、戸田市ボートコースにて

市制50年の中でも特に、人口増に寄与したのが1985(昭和60)年、JR埼京線の開通だ。いまでは想像もつけないが、戸田市には当時、鉄道が通っていなかった。そこに「北戸田駅」「戸田駅」「戸田公園駅」の3駅が一挙にできて、都内・県内へのアクセスが飛躍的に上がった。こうした時代の流れの中で、戸田市は都市化を加速させ、県内で最も平均年齢が若い(40.1歳)まちへと変貌した。

交通と自然環境のよさから、市内には印刷や食品産業を中心とした製造業、倉庫や配送センターなどの流通業が進出。子育て世代や都心部へ通勤する人たちが人口も安定的に増加し、活力あるまちとして発展している。



戸田市を代表する景観としても親しまれている戸田ボートコース

### ボート競技者の聖地

戸田市の治水対策のために造成された(竣工は1940年10月)。大会開催返上後も造成は継続され、1963年に改修工事を行ない現在の姿となった。1964年開催の東京オリンピックのボート競技の会場として利用されたことで知名度は全国区に。1988年には「戸田公園大橋」が完成した。北コースの長さは、約2.4km。日本で唯一の静水コースだ。西端から約500mの地点に戸田公園大橋がかかり、橋の西側は、競艇場として利用されている。

水面の東端に国立スポーツ科学センター「戸田艇庫」、県立戸田第一艇庫があり、各大学や社会実業団の艇庫がずらりと並び、全日本選手権や学生選手権をはじめ、名だたる大会を開催するまさにボート競技者の「聖地」だ。



戸田市の市制施行を市民とともに祝った=1966(昭和41)年10月1日

### 市制施行から半世紀

市制50年を迎え、戸田市の発展を祝う。市制50年を迎え、戸田市の発展を祝う。市制50年を迎え、戸田市の発展を祝う。

戸田市のゆるキャラ(左から)トマピー、けんちゃん、とだみちゃん、とーぶく、トッピー

戸田市のゆるキャラ(左から)トマピー、けんちゃん、とだみちゃん、とーぶく、トッピー



戸田市のゆるキャラ(左から)トマピー、けんちゃん、とだみちゃん、とーぶく、トッピー

### 記念式典・とだ50祭

10月1日開催

戸田市のゆるキャラ(左から)トマピー、けんちゃん、とだみちゃん、とーぶく、トッピー



市内広範囲から花火を見ることができ、自宅周辺から花火を楽しむ市民も多い

### 夏の風物詩「戸田橋花火大会」

戸田橋花火大会は、63回目を数え、ことしは8月6日に開催された。例年40万人以上の観客が訪れる戸田市が誇るビッグイベントだ。

この戸田橋花火大会の同日同時刻には「いたばし花火大会」が荒川を挟んで対岸で開催されることから、一回の花火大会で2つの花火大会を鑑賞することができる楽しみがある。

国道17号戸田橋上流の戸田市河川敷の周りに高層ビル群がないことから比較的どこからでも見やすいのが特徴だ。

戸田橋花火大会だけでも、約6千発の花火が打ち上げられ、対岸の板橋側と合わせると、計約1万2千発もの花火が打ち上げられる。

スターマインや尺玉、中でもフィナーレのウルトラスターマインは一見の価値ありだ。来年2017年の開催は8月5日を予定しているのぞきととも訪れたい。

埼玉・東京・神奈川・千葉・静岡に28の病院、6つの介護老人保健施設など114事業所を展開

## 戸田市とともに“愛し愛され”50年

昭和37年(1962年)、当時の戸田町に、29床の戸田中央病院を開院してから50余年。戸田中央医科グループは創立当初から変わらぬ“愛し愛される”という理念のもと、皆さまの健康を考えるトータル・ヘルスケアグループとして、これからも地域における医療、介護、保健、福祉の充実・発展に貢献し続けてまいります。

### 戸田中央総合病院の変遷

昭和37年 戸田中央病院開院(病床数29床)

昭和38年 朝礼風景・病院横の空き地にて(67床)

昭和39年 第二期増築工事完成(90床)

昭和43年 本館(現在のC館)竣工(214床)

昭和45年 当時の病院全景(214床)

昭和58年 当時の病院界隈(296床)

昭和63年 新棟(B館)竣工(402床)

平成15年 当時の病院全景(402床)

平成18年 新棟(A館)竣工(446床)

平成25年 新棟(D館)竣工当時の病院全景(462床)

平成27年 30床増床(492床)

戸田中央医科グループ

一般社団法人 TMG本部  
〒335-0023 埼玉県戸田市本町1-22-3 TEL.048-442-6418(代)  
http://www.tmg.or.jp/

会長 中村 隆俊  
副会長 中村 毅  
副会長 横川 秀男